

問題 11. クリプトコッカス症

症例：68歳、女性。胸部エックス線異常陰影。

検体（採取法）：肺穿刺吸引

染色：パパニコロウ染色

問題：正しいものに○、間違っているものに×をください。（VS：バーチャルスライド）

1. VSでは、酵母型真菌がみられる。 ○
2. アスペルギルス症が疑われる。 ×
3. Fontana-Masson染色で陽性となる。 ○
4. 食道の白色斑状病変を合併することが多い。 ×

解説：

クリプトコッカス症はクリプトコッカス・ネオフォルマンズ（フィロバジディエラ・ネオフォルマンズと改名）による外因性真菌症である。本菌は土壤中に生息し、この孢子が鳩の糞に混じったものを吸入することで感染を起こす。AIDS、免疫抑制状態の白血病患者に多いが、病原性が強いので健常人にも発症する。画像検査では、胸膜直下の孤立性あるいは多発性の結節性陰影を示すことが多い。本菌は円形・卵円形の酵母型真菌で、酸性多糖類の厚い莢膜を有する（図1、図2）。健常人の場合には、胞体内に多数の菌体を含む組織球が肉芽腫を形成する（図3）。肉芽腫は壊死性・非壊死性のいずれの形態もとりうる。莢膜はD-PAS、アルシアン青、ムチカルミン染色等の粘液染色に好染する。しかし、近年、莢膜の欠損した菌（Capsule deficient *C. neoformans*）が明らかになっており、この場合には粘液染色は陰性となる。従って、診断には、細胞壁に陽性に染まるグロコット染色やフォンタナ・マッソン染色が推奨される。

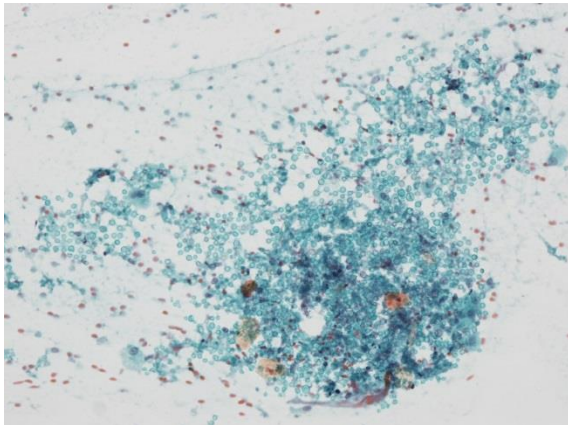


図 1

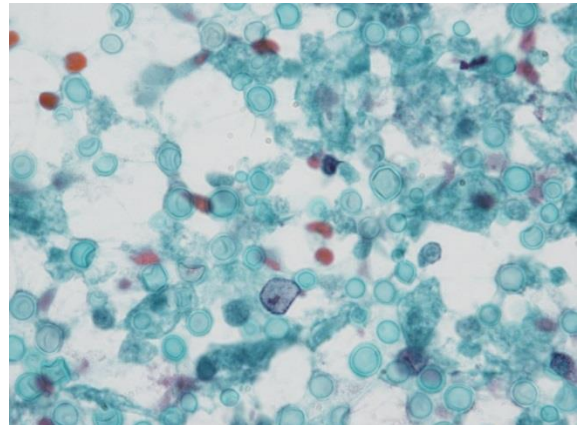


図 2

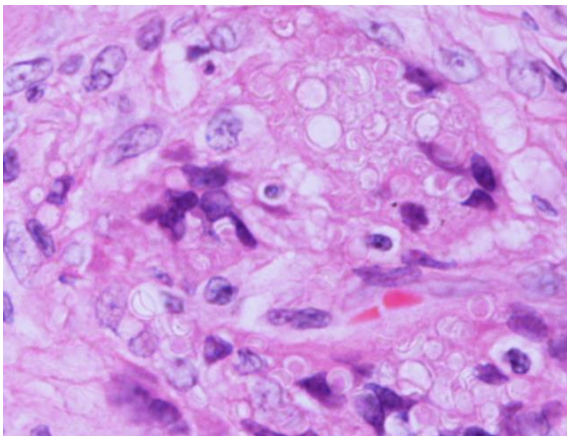


図 3